

- ジャガー・ランドローバー・ジャパン、ジャガー「Xタイプ」等計13車種のヘッドライトに不具合があるとして再リコール 01年6月25日～08年2月12日に輸入した8980台  
ヘッドライトの光軸調整支持棒の材質が不適切な為、強度が不足しており、走行振動等により支持棒が折損し、光軸が下を向く恐れがある。2012年1月13日にリコールを届け出たが、対策部品に不具合が発生した為、再度リコールを届け出た。
- 三菱ふそうトラック・バス、大型バス「エアロエース」等計4車種のフロントドアガラスヒーターに不具合があるとしてリコール 07年9月4日～19年2月20日に生産した7120台  
オプション設定されているフロントドアガラスヒーターの配線の固定方法が不適切な為、ドア開閉時にアーム部(上側水平バー)の配線に局部的な曲げが生じるものがある。その為、そのままの状態で使用を続けると、ドア開閉に伴って配線が繰り返し曲げられることで配線が断線し、発煙が生じる恐れがある。
- ジャガー・ランドローバー・ジャパン、ジャガー「Xタイプ2.0V6」同エステート」の燃料ポンプに不具合があるとして再リコール 02年3月19日～08年3月28日に輸入した3477台  
燃料タンクのポンプモーター配線端子接続部のはんだ下処理が不十分な為、はんだ割れ、はがれにより接触不良となることがある。その為、はんだ接続部が発熱し断線して、燃料供給が止まりエンジンが停止する。または、端子周囲が溶損し穴が開き、燃料が漏れ、最悪の場合、火災に至る恐れがある。2012年10月23日にリコールを届け出たが、対策部品に不具合が発生した為、再度リコールを届け出た。
- トヨタ自動車、「クラウン」のクォーターウィンドウガラスに不具合があるとしてリコール 18年5月16日～同年8月10日に生産した9688台  
後席ドア後部に取付けているクォーターウィンドウガラスのモールディングに、ガラスとの密着性が不十分なものがあることが判明。走行時の風圧等により接着が剥がれて異音が発生し、そのまま使用を続けると、最悪の場合、モールディングが脱落する恐れがある。
- いすゞ自動車、「フォワード」の排気管に不具合があるとしてリコール 14年10月3日～17年8月29日に生産した5万7119台  
排気管のフレキシブルパイプ蛇腹部の構造が不適切な為、エンジン回転により蛇腹部が共振するものがある。その為、内部部品が擦れ合い、そのまま使用を続けると、摩耗して穴が開き、排気ガスが漏れる恐れがある。
- 日産自動車、電気商用車「e-NV200」のパーキングケーブルに不具合があるとしてリコール 14年9月19日～17年1月30日に生産した2468台  
パーキングケーブルにおいて、シフトレバー連結部留め具の材質が不適切な為、加水分解にて劣化することがある。その為、留め具が破損し、シフトレバーとの連結が外れてパークロック操作ができなくなり、最悪の場合、パークロックが掛らず始動できなくなる恐れがある。
- マツダ、「ロードスター」の兄弟車であるアバルト「124スパイダー」のトランスミッション制御コンピュータに不具合があるとしてリコール 16年9月2日～19年3月20日に生産した730台  
ATモデルのトランスミッション制御コンピュータにおいて、クラッチ制御プログラムが不適切な為、Dレンジ(マニュアルモード含む)で走行中にレンジ信号ノイズを検出した場合に、意図しないクラッチ制御が作動することがある。その為、減速感を伴うショックが発生し、最悪の場合、走行安定感を損なう恐れがある。
- コマツ、エンジン式フォークリフト(LPG仕様車)のLPGペーパーライザ取付ブラケットに不具合があるとしてリコール 05年1月28日～08年8月9日に生産した9型式372台  
LPGペーパーライザ取付ブラケットの強度が不足している為、ローアイドル時に油圧負荷を掛けるような操作を繰り返すと、エンジンの振動により、ブラケットに亀裂が生じるものがある。その為、そのまま使用を続けるとブラケットが折損し、LPGペーパーライザが固定できなくなり、燃料配管に負荷が掛かり、最悪の場合、燃料配管が折損し、LPGが漏れ、発火する恐れがある。
- トヨタ自動車、「プリウス」「C-HR」「ジャパントクシー」、レクサス「UX250h」・ダイハツOEM「アルティス」等計13車種のブレーキに不具合があるとしてリコール  
電子制御式油圧ブレーキのブレーキブースタポンプにて、ポンプモータの構成部品である樹脂製ブラシホルダの成形型が不適切な為、ブラシとの隙間が小さく、ポンプ作動時にホルダが熱膨張してブラシが引っ掛かり、ポンプモータが導通不良となるものがある。その為、ポンプモータが作動せず警告灯が点灯し、最悪の場合、倍力作用が損なわれて制動停止距離が伸びる恐れがある。  
19年4月26日～同年6月4日に生産した2万2431台
- フェラーリ・ジャパン、「488GTB」等計8車種のエアバッグ装置に不具合があるとしてリコール 13年12月17日～18年6月4日に生産した186台  
エアバッグコントロールユニットにおいて、コンデンサー内のマイナス端子の接着が不適切な為、電圧が安定しないものがある。その為、エアバッグの警告灯が点灯し、エアバッグ、シートベルトプリテンショナーが作動しない恐れがある。または、エアバッグ、シートベルトプリテンショナーが誤作動し、最悪の場合、事故につながる、または、乗員が負傷する恐れがある。
- マツダ、「マツダ3」のルームミラーに不具合があるとしてリコール 19年3月5日～同年3月20日に生産した115台  
ルームミラーにおいて、ホルダと鏡面の接着方法が不適切な為、接着強度が不足しているものがある。その為、接着が剥がれてホルダから鏡面が浮き上がり、最悪の場合、鏡面が脱落する恐れがある。
- UDトラックス、「クオン」のかじ取り装置に不具合があるとしてリコール 17年4月28日～19年5月27日に生産した7749台  
かじ取り装置のアクスルビームとキングピンの嵌め合い寸法が不適切な為、過度な使用を繰り返すと、キングピンの保持力が低下してピンが降下するものがある。その為、キングピンがステアリングナックル上部から分離してホイールアライメントが狂い、タイヤの偏摩耗及びハンドル操作に違和感が発生し、最悪の場合、直進安定性が損なわれる恐れがある。

## スキャンツール導入補助金の公募開始について

国土交通省は今年度のスキャンツール導入補助金の公募を7月24日から開始しました。予算額は前年度と同様の1億5千万円！補助上限額は1事業所あたり15万で、10月31日が締切となります。

診断結果をパソコンなどで検証するための標準ファイル形式(エクセル・CSV・テキスト・PDF)で保存できる事に加え「スキャンツール本体またはパソコンなどからインターネットを通じて外部に情報を送信できるもの」との要件を追加したのが特徴です。

2013年度から補助金を展開していますが、昨年度は公募開始から2カ月弱という異例の早さで受付終了となり、かなりの急要性がうかがえます。補助申請の合計額が公募予算額を超える場合には、受付申請提出時の消印日を基準にし、先着順で採択する予定だそうです。

すでにスキャンツールメーカー各社は補助金に合わせて新商品を投入しており、スキャンツールのさらなる利活用に向けた原動力となるようです。